



# I Have a Dream

HIV感染者は約200万人



JICA専門家  
(HIV/AIDS及び結核対策プログラムコーディネーター)  
座間 智子

「私には夢がある。私の子供たちが成人し自立するまでを見とどけ、そして我が子がこの疾患に脅かされない時代が来ることを…」これはHIV陽性のザンビア人女性の言葉です。

ザンビアは、全世界の中でも最も高い感染率を示す国の一つで、15歳から49歳のHIV感染率は約16%と発表されています。首都ルサカでは22%という高い感染率で、約5人に1人がHIVに感染していることになります。

アフリカ大陸の南部に位置し8つの国に囲まれたザンビアは、日本の約2倍もある面積の国土に、人口1千万人のバンツー系を主とした73の民族が暮らしています。1964年、東京オリンピックの年に英連邦より独立し北ローデシアからザンビア共和国へと改名しました。1970年代のザンビアは、銅生産で栄え、温和で争いを好まない人々は大自然の恵みに頼り、主食のトウモロコシを育て穏やかに暮らしていたのでしょ。

1984年ザンビアで初めてのエイズ患者が報告されました。それから20年、現在のHIV感染者は約200万人、エイズによる死亡者数は2010年までに140万人を超えると予測されています。また、エイズにより片親または両親を失った孤児の数は70万人に昇りました。多くの医療従事者、教師、農民、そして子供たちと、このウイルスは相手を選ばずザンビア全土に広がり、平和な国ザンビアを一瞬のうちに深い悲しみの国へと変えてしまいました。また、それまでコントロールできていた結核対策にも影響を及ぼし、結核の罹患率は人口10万対500と、戦前の日本をはるかに上回る状況に至っています。

11年前の1994年、私は日本からこのザンビアに生活の場を移しました。アルバムの1ページ1ページをめくるように、私のザンビアでの生活はエイズの変遷と共に歩んできたように思えます。多くの人々との別れや、悲しみ、そしてそれを乗り越えようとする人々のたくましさに触れる日々でした。この10年間、ザンビア政府、NGO、教会、

住民団体も、具体的な解決策が見出せない中、手探りでこの問題に取り組みました。何も知らずに日本から来た私にとっては、毎日があまりにも衝撃的で、ザンビアの住人として何かをしななければならない気持ちでいっぱいでした。

1963年マーチン・ルーサー・キング牧師は、ワシントン大行進でのスピーチでこう語りました。「私は同胞達に伝えたい。今日のそして明日の困難に直面してはいても、私にはなお夢がある。…私の4人の小さい子供たちが、肌の色ではなく内なる人格で評価される国に住める日がいつか来るという夢が。」その約30年後、ザンビアの隣国、南アフリカではネルソン・マンデラ氏が大統領に就任しました。人類の歴史の中で先人たちは、夢を叶えるためにたゆまぬ努力を続けてきました。まん延したペストや天然痘などの伝染病が制圧されたように、この疾患においても人類の叡智をもって終焉が訪れることを祈りつつ、そして、私のザンビア生活におけるアルバムの最後のページが、子供たちの笑顔で終わることを願って止みません。

これから5回にわたって、この時代を生きるザンビアの人々が願いをかなえるためにどのように戦っているのか、その困難さをどのように勇気や力に変えているのかをお便りさせていただきます。日本から遠い国ではありますが、この国の出来事を身近に受け止めてくださればと思います。

